

第38回「地方の時代」映像祭2018

グランプリ受賞作品東京上映会のご案内

「地方の時代」映像祭2018の時代」映像祭グランプリ受賞作品は

「菜の花の沖縄日記」(沖縄テレビ制作)に決定しました。

受賞作品を上映し、制作者や主人公と語り合う会を開催します。

皆様ふるってご参加ください。もちろん入場は無料です。

日時: 12月1日(土) 13時30分 開会

場所: 関西大学東京センター(千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー9階)

(住所は丸の内ですが、実際には東京駅の八重洲側、日本橋口から
大手町方向に駅ビルを出てすぐ左側にサピアタワーがあります。

いったん3階に上がり、入構証を受け取って9階に上がってください。

入場は無料、参加はご自由ですが、入構証準備のため、できるだけ
事前に、参加希望を東京センターにお知らせください。

電話は、03-3211-1670(代表)です。)

ゲスト: 坂本 菜の花さん(番組の主人公です)

平良 いずみさん(沖縄テレビ報道部) ほか

司会: 橋本 佳子さん(映像プロデューサー・「地方の時代」映像祭審査委員)

■ 沖縄テレビ放送 [2018.5.26放送]

●P/山里孫存 ●D/平良いずみ [47分]

菜の花の沖縄日記



制作意図

番組で描きたかったのは、基地政策によって人々の暮らしが脅かされる沖縄の現実。そして、理不尽な状況に追い込まれながらも、希望をもって生きる若者、尊く生きる島の人々の姿です。

解決策の見いだせない問題を前に、沈黙する人が多いのが沖縄の現状です。閉塞感漂う社会にあって未来を信じ行動する主人公の存在は、「希望」。その希望を描きたいと思い、番組を制作しました。

あらすじ

石川県から沖縄の学校で学ぶためやってきた坂本菜の花さん、15歳。人々との交流を通して彼女は、この島ではずっと「戦争」が続いていることを肌で感じ取っていく。こうした体験を故郷の新聞のコラム「菜の花の沖縄日記」に書き続けた。希望の島で、15歳の少女がみた、リアル沖縄とは…。

基地政策によって人々の暮らしが脅かされる沖縄の現実一、その中において希望を抱き生きる若者を追ったドキュメンタリー。

ご来場をお待ちしております。 「地方の時代」映像祭プロデューサー 市村 元